

超高齢者社会の共創的モノ・サービスづくり

グローバル共創科学部 教授 須藤智（すとうさとる）

Keyword: 認知科学・認知心理学・認知工学・高齢者心理学

研究概要

- 心理学の一分野である「認知工学」や「認知心理学」の考え方、研究方法、知見に基づき、人々が日常的に利用する道具（モノ・サービス）の使いやすさ（ユーザビリティ）のメカニズムを解明するとともに、道具を用いて活動する際の人の認知過程や認知機能について研究しています。
- 特に近年は、超高齢社会を背景として、高齢者を対象としたさまざまなモノ・サービスの「使いやすさ」の向上や、ユニバーサルデザインの実現に向けた共創的研究を推進しています。

→研究を通じて、社会全体のウェルビーイングの向上を目指します

使いやすいモノ・サービスをどう研究・開発するの？

アピールポイント

これまでの製品の研究開発

企画・開発
↓
プロトタイプ
↓
評価・改善
↓
製品化

オープン化

- 知財等の関係の配慮から
- ・ 自社 + 関係会社内で実施
 - ・ 部分的にユーザが関わる

製品の機能向上、
価値向上の限界

「リビング・ラボ」の手法を使った共創的研究開発

① 市民（ユーザ）の日常生活レベルでの課題を発見・ステークホルダー間での共有



② 課題解決のためのモノ・サービスを一緒に具現化・創出



④ 社会での創出したモノ・サービスの実践的利用



③ 創出したモノ・サービスについて価値評価するための調査・評価研究の実施



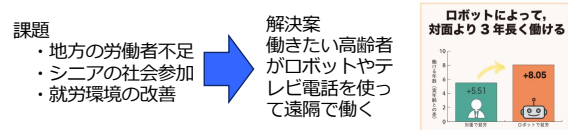
- ・ リビング・ラボとは？
- ・ ユーザーの日常生活における課題の解決策を検討する際に、当事者であるユーザーが積極的に関わる共創型の研究・開発手法です。
- ・ ユーザーが実際の日常生活の場を提供することで、社会環境や生活環境に近い条件のもと、プロトタイプや実製品・サービスのユーザー評価を実施します。
- ・ →ユーザが共創パートナーとして研究開発過程に参加

応用先

- ・ 研究室ではリビング・ラボを実施する組織として「静岡アクティブシニアラボ」を設置しています。
- ・ 65歳以上の高齢者180人以上が登録して「モノ・サービス」を高める研究活動に主体的に参加してください。

静岡アクティブシニアラボの高齢者メンバーと一緒にモノ・サービス作りをしませんか？
基礎研究研究も可能です！

（研究例）高齢者がロボットを使ってリモートで働く環境づくり



静岡大学でトレーニング&就労



内閣府・IST戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期
ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築
「誰もがいつまでもhappy work可能なバーチャル空間構築」